

令和6年11月21日

石巻市議会議長 遠藤 宏 昭 殿

会 派 名 石巻市民クラブ
代表者氏名 会長 大 森 秀 一

調査報告書

調査した概要は次のとおりであります。

記

- | | |
|---------|---|
| 1 調査者氏名 | 大森秀一、高橋憲悦 |
| 2 調査期間 | 令和6年11月13日から
令和6年11月15日まで 3日間 |
| 3 調査地 | (1) 大阪府堺市
・フードロス対策について
(2) 鳥取県境港市
・水木しげるのマンガを活かしたまちづくりについて |

4 目 的

(1) 大阪府堺市

・フードロス対策について

可燃物ごみ処理にあたり、生ごみ比重が高くなっており、また、「食材の宝庫いしのまき」として、生産から消費までを見つめ直す中、市民生活でのフードロスが見つめ直されている。

視察地の堺市では、いち早く、まだ食べられるのに捨てられる食品ロスなどの食品廃棄物の減量に向け、小盛りメニューの導入や食べ残し削減の啓発活動などに取り組む飲食店等に「食べきり協力店」として認定し、市民・協力店・市が一体となった食べきりの推進を行なっている。

本市でも、食品ロス削減を目的とした「もったいない！食べ残し！30・10（さんまるいちまる）運動」を実施している。堺市における取組を学び、今後の本市の事業の参考とするため、この事業にいち早く取り組み、数々の成功例を挙げられ、全国的な先駆者である、大阪府堺市を視察し、直接取組について調査を行うものである。

(2) 鳥取県境港市

・水木しげるのマンガを活かしたまちづくりについて

衰退する中心市街地商店街の賑いの回復と活性化を目的に、歩道の拡幅とあわせ、境港市出身の水木しげる氏の代表作である漫画「ゲゲゲの鬼太郎」などに登場する妖怪のブロンズ像を歩道内に設置し、親しみのもてる道として整備が開始し、今年で25周年となる水木しげるロードが、本年7月にリニューアルされている。また、水木しげる記念館も本年4月にリニューアルオープンしており、マンガを活かしたまちづくりを推進している本市においても、マンガを活かしたまちづくりを推進していることから、境港市における取組を学び、今後の本旨の事業の参考とするため、この事業にいち早く取り組み、数々の成功例を挙げられ、マンガを活かしたまちづくりの全国的な先駆者である、鳥取県境港市を視察し、直接取組について調査を行うものである。

5 調 査 概 要

(1) 大阪府堺市

◆ フードロス対策について

堺エコポイント事業は、堺環境戦略に掲げる「全ての人が幸せに暮らす、持続可能な環境イノベーション都市」の実現に向けて、市民の環境行動変容を促進し、ライフスタイルの脱炭素化を図ることを目的とした事業である。この事業は、脱炭素先行地域「堺エネルギー地産地消プロジェクト」の一環で実施するもので、環境省：食とくらしの「グリーンライフ・ポイント」推進事業の選択を受け、令和4年に開始された。

堺エコライフポイント事業は、専用スマートフォンアプリを用いてアプリをダウンロードし、環境行動（環境省グリーンライフ・ポイント10項目について）でポイントをゲットし、そのポイントで選べる2つの特典（必ずもらえる・抽選に当たる（応募資格を取得））がゲットできるという流れになっている。堺市では、環境省の環境行動10項目に加えて独自の13項目を加え実施している。堺市では、本年2月末時点のユーザー数は、4,193人である。

環境行動（環境省グリーンライフ・ポイント10項目について）の中で今回の視察調査の対象であるフードロス対策として、「食事の食べきり」として300ポイントが設定されている。現在は、144店舗の協力店が参加しており、右肩上がりが増加している。生活ごみの中で、食べ残し等による生ごみは約30%を占めていることを踏まえ、「食事の食べきり」ポイントは、大いに効果が発揮できるもの期待している。

消費者（お客様）と参加店舗が協力し合い、前述の2つの特典に使用できることが狙いである。

①ポイント交換（必ずもらえる）

貯めたポイントを、電子マネー等100円相当に交換

- ・電子マネー等の提供は概ね月1回
- ・ポイント数は2,600ポイント
- ・交換回数上限は、40回

②選べるプレゼント品（抽選で当たる）

貯めたポイントを、協賛企業等に提供いただく魅力的なプレゼント品が当たる抽選応募に使用

- ・抽選回数は、期間中数回（令和5年度は2回）
- ・ポイント数は、1回あたり700ポイント 1,300ポイント 2,600ポイント
（ポイント数は、協賛品の内容や協賛金額に応じ決定）

(2) 鳥取県境港市

◆ 水木しげるのマンガを活かしたまちづくりについて

水木しげる記念館多目的室に、当会派と日高見の会、無会派の齊藤澄子議員が合流し説明を受け研修した。境港市は、令和元年から始まった「緑と文化のまちづくり」をテーマにJR境港駅から商店街を結ぶ目抜き通りに、境港市出身の水木しげる氏が描く漫画に登場する妖怪のオブジェ・モニュメント・絵タイルを歩道に設置し、人々に優しく、親しまれる快適な道づくりを進めてきた。テレビ等で大きく取り上げられ、大変な反響があり、全国から多くの観光客が訪れる名所となった。近年は、空き店舗の解消及び地元商店街が、大型店にはないソフト面での充実を図るなど、商店街活性化にも寄与している。一部完成から20年が経過した平成26年3月に、水木しげるロードの賑いを今後も継続させることを目的に、水

木しげるロードリニューアル事業実施に向けた基本構想を策定、平成27年度に実施計画を行い、平成28年度から工事着工、平成30年夏にリニューアルオープンした。

◆水木しげるロードリニューアル事業

<特徴>

- ・妖怪を題材としたユニーク性とストーリー性
- ・彫刻と黒御影石の台座が一体化し、新しい街並みの形成
- ・型苦しい彫刻ではなく、誰でもが触れ、親しめるもの
 - *大きさは一部キャラクターを除いて、ミニサイズにし、妖怪のおどおどしさや、恐ろしさといった部分に配慮している。

<事業実施機関>

令和4年度～令和8年度

<総事業費>

4億4,000万円

市債 3億1,200万円 自治省商店街振興整備特別事業

宝くじ助成金 3,400万円

一般財源 6,400万円

<内容>

総延長800m

妖怪オブジェ 82体 令和8年8月完成予定

妖怪レリーフ 5基

絵タイル 8枚

アーケード改装 総延長550m

公衆用トイレ、ポケットパーク、大正川整備

<累計入込数>

44,990,546人（平成5年から令和6年10月末）

◆境港市の観光について

- ・3つの港と水産・観光資源を生かしたまちづくり
 - ①特定第3種漁港「境港港」
 - ②重要港湾「境港」
 - ③国際空港「米子鬼太郎空港」
- ・境港の楽しみ方（鬼太郎編）
 - ①水木しげるロード 178体の妖怪ブロンズ像 全長800m
 - ②水木しげる記念館 水木ワールドの集大成として平成15年に建設（年中無休）
 - ③妖怪影絵（夜の魅力） これまでの滞在時間が短かったのを解消するため約50種類の妖怪が影絵となって登場 通過型⇒滞在型
 - ④JR港線 鬼太郎列車 全6種リニューアル
沿線18駅には妖怪名の愛称
 - ⑤はまる〜ぷバス 市内循環バスで、60か所をカバー。平成30年度より定期券1日乗車券を導入し利便性を向上。夏休み期間は夜間運行を実施

6 所感

(1) 大阪府堺市 フードロス対策について

まずは、昔から日本の経済の中心地「堺」といわれるだけあって、物を大事にし、流通から消費まで一貫して取り組む「堺商人」伝統と心意気を感じた。

消費者も生産者を含む取扱店もどちらもウイン・ウインの成果が発生し、その相乗効果が市民生活や環境を守る自治体に大きく貢献をもたらす結果となる素晴らしい取組と感じた。

特典として、地元企業から協賛店として取り込み、地元の商品を提供し、この事業に要する自治体の経費負担の軽減も図られ、これぞ三位一体の施策であると感銘した。

(2) 鳥取県境港市 水木しげるのマンガを活かしたまちづくりについて

境港市の観光拠点である「水木しげる記念館」は、境港市から一般社団法人水木しげる記念館管理運営共同事業体に指定管理をさせているが、指定管理料は一切なしという説明に驚愕した。また、市債を7億円投入してリニューアルしたが、その返済は、受託団体が市に返済するという極めて珍しいケースである。

また、妖怪ブロンズ像の設置に際しても、民間からスポンサーを募り、社団法人の負担が全くなく、民間企業を活用しての取組について、参考になる取組が多くあった。

例えば、社団法人設立団体として、水木しげるのプロにも参画してもらい、同プロの社長が代表理事を務めているため、複雑な著作権問題がスムーズに行なわれており、あらゆる企画が精度の高い事業となっている。

7 調査による本市への政策提言等について

(1) 大阪府堺市 フードロス対策について

本市には飲食店が多数あり、また、生ごみを扱う石巻地区クリーンセンターも老朽化による改修、新設建設が課題になっている現在、大いに検討すべきであると思う。

特に、これから忘年会、新年会シーズンを迎え、現在の声掛けによる「もったいない！食べ残し！30・10（さんまるいちまる）運動」を実施と合わせて、食べ残しを防ぐため、食べ残しをしなかった者への特典、食べ残しを確認した飲食店への特典を大いに検討すべきであると思います。また、家庭においても「我が家の宣言 食べ残し ゼロ」を目指す啓発が必要であり、食べ残しによる弊害と食べ尽くしによる効果について家族で話し合う啓蒙の促進を提言する。

(2) 鳥取県境港市 水木しげるのマンガを活かしたまちづくりについて

本市の石ノ森萬画館、境港市の水木しげる記念館との比較検討の中で、どうしても境港市は水木しげる氏の地元でもあり、「おらが水木しげる」という盛り上がりにはかなわない。

一方、本市の石ノ森萬画館は市民はもとより来訪者にも「なんで石巻市に石ノ森萬画館あるの？」という疑問と矛盾を払拭できないハンデがある。そのことは解決できない問題であるのであえて触れない。

境港市の玄関口であるJR境港駅から直線800m（水木しげるロード）沿い商店街を通り水木しげる記念館がある。本市も同様に石巻駅から曲線ではあるが萬画館への道沿いにモニュメントがある。また、境港市ではJR境線は鬼太郎列車があるように、石巻市でも仙石線にイメージキャラクターがラッピングされたマンガタンライナーが数車両ある。

境港のはまる〜ぷバスと同様、石巻と仙台を結ぶ都市間バスにも数台ラッピングした車

両を走らせている。あわせて第3種漁港を有する条件も同じである。

しかしながら、両市における取組に大きな差が生じているのはなぜだろうか。それは「本気度」の差である。境港市にも観光行政におけるハンデがある。出雲大社への観光の通過型観光地であること。鉄道高速化の基盤が整っていないこと（首都圏や関西圏からのアクセスが悪い）。そのハンデを「本気度」でカバーしている。「半端でなくとことんやる」の熱意が違うような気がする。

両市も中心市街地活性化計画を抱え、本市もその見直しを検討しているようである。今回視察した境港市の「まんがを活かしたまちづくり」は、ひなびた商店街のアーケードの改修、シャッター通りの解消を柱とした都市計画事業の課へ配属された職員の発想と機転から始まった。その職員こそが、今回の視察研修で説明された水木しげる記念館ゼネラルマネージャーの木下雄一氏である。記念館オープンと同時に境港市役所を中途退職され、この仕事をされているそうである。御年40歳代と推察されるので、「市役所を中途退職されて、給料面や生活面で大変ではないのですか？」と尋ねると、「小さい子どもがいるので大変です。ボーナスもそれほどなく…。しかし、仕事の面で満足していますので、そちらの方が大事です。」と笑顔で答えられたのが印象的でした。

職員の適材適所の中の成功例の一端だと思いますが、ぜひとも本市の重大事業を行うとき、職員の「本気度、やる気と、責任感を兼ね備えた職員の配置」に参考にしていただきたいと思います。

また、石巻駅から石ノ森萬画館へは曲線的移動であるため、車道や歩道に案内表示（車道であればマーキング、歩道であれば絵タイルなど）や、夜間の街路灯の光を利用した影絵などを検討されてはいかがでしょうか。

8 調 査 経 費 224,910円

9 添 付 書 類 別添資料のとおり